

肝心かなめの 肝臓 のはなし

10

香川大学医学部消化器・神経内科教授

正木 勉

なぜ、C型肝炎ウイルスを駆除 しなければならないかーその1

C型肝炎ウイルスは、主に血液を介して感染します。過去に手術による輸血を受けた方、透析患者、入れ墨・ピアスを入れ

ている方、覚醒剤の注射の回し打ちを経験した人に多いとされます。歯ブラシ、カミソリ等は別にする必要性がありますが、

通常の接触等では感染しません。

一般に感染すると、15〜20％は自然治癒するのですが、80〜85％は慢性肝炎に移行します。

慢性肝炎は、肝臓の線維化（硬さ）によって1〜3段階があり、段階の4段階が肝硬変です（図）。ウイルスを駆除しなければ、8年で1段階上るといわれています。

つまり、C型肝炎ウイルスに感染するとはほとんどが慢性化し、この階段を上っていきま

す。そして肝硬変（階段の4段階目・F4）を経ると、C型肝炎ウイルスによる肝細胞がんを高頻度に発症します。現在、C型肝炎ウイルスによる肝細胞がんの初発年齢は、70代半ばと高齢

です。

何の治療もしなければ、C型肝炎ウイルスによる肝硬変は年率8％で肝細胞がんを発症します。年率8％とは、C型肝炎硬変100人の患者から1年後に8人ががんになるという意味です。そのような意味において、C型肝炎硬変は肝細胞がんのスーパーハイリスクといえるでしょう。

ウイルス駆除で 肝細胞がんを阻止

ただし、ウイルスを駆除するこの段階を下がり、4年で1段階降りると考えられています。

私の学生時代は、C型肝炎ウイルスによる肝硬変は治らないものと考えられていましたが、C型肝炎硬変でもウイルスを駆除すればこの階段を下り、長期間

を要しつつも肝臓が本来の姿に改善していきます。よって、C型肝炎ウイルスは肝細胞がんを阻止する上で駆除しなければならないわけです。

※初発年齢は
70代半ば

【C型肝炎からの発がん】

